

いただきますの森 日記 VOL. 7

令和4年に行った『大豆苗を子どもたちへプロジェクト』についての報告です。

今回のいただきますの森日記は令和4年に行った『大豆苗を子どもたちへプロジェクト』の活動についてお知らせ致します。

このプロジェクトは、2021年にいただきますの森で育てた神奈川県相模原市緑区の千木良地区で古くから大切に育てられている津久井在来大豆を国立市内でも広げていきたいと始まったものです。

どのように広げるかを考えていく中で、ぜひ子どもたちへ大豆の成長過程を観察しながら、大豆を育てて貰いたいと案が出ました。

種から育てるよりは苗からの方が子どもたちも育てやすいのではという思いから大豆ではなく、大豆苗をプレゼントしようということになりました。

まずはつながりのある国立第一小学校、国立第六小学校、矢川保育園へ私達の思いや趣旨を説明したり、打ち合わせを行いました。それぞれ子どもたちの観察や学びにもつながると快く受け取りました。

そして7月中旬頃、大豆の苗と大豆の絵本『まほうのおまめ』をプレゼントしました。

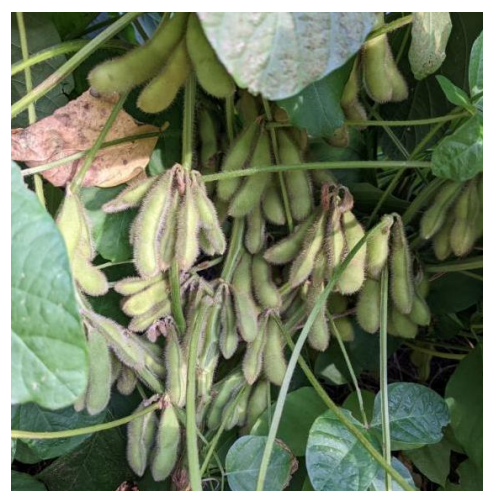


プレゼントしたまほうのおまめの本には大豆が私達の生活に欠かせないものであり、味噌や醤油、きなこや納豆、おからドーナツなどの加工品になったりと大豆の素晴らしさや大切さを伝えてくれています。

子どもたちに大豆の大切さや大豆の加工等について身近に感じて貰えるように一緒にわかりやすい絵本をプレゼントしました。いただきますの森でも育て方の説明やサポートを行いました。

それぞれの花壇や畑に子どもたちが大豆苗を植え付けました。その後土寄せや草取り、水やりを行ったりと場所により作業や育ち具合は異なりますが、夏の暑さにも台風にも負けずにすくすく成長し立派な実をつけました。

あまりに立派な実のため、枝豆で食べてしまった所もありました。



その後段々と葉が緑色から黄色へそして茶色へ変化し最後には地面へ落ちていく過程を見ることも出来ました。

11月上旬に大豆を収穫し、乾燥させて下旬に大豆のさや取りを手で行いました。

枝豆とは違い、乾燥した大豆のさやは手でパキッと割れて音も楽しみながら剥きました。

子どもたちもとても生き生きと作業をしていました。



1本の大豆から250粒を超える大豆が採れたものもたくさんありました。



収穫した大豆は、豆サラダにして食べたり、ご家庭へ配ったり、それぞれに楽しみました。

国立第六小学校の花壇ではこぼれ落ちた大豆が花壇から芽を出し新しい命が育っていました。

新しい命がどのようにしていくのか子どもたちにも観察してみてねと伝え、大豆の力強さを実感しました。

ぜひこれからも津久井在来大豆を繋げて貰いたいと思います。

ご協力頂きました皆様に本当に感謝致します。

ありがとうございました。

またこれからも津久井在来大豆の輪が国立市内でも広がることを願っています。



(文責：グラスホッパーズ/いただきますの森 大豆プロジェクト 前川)